

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891500054
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホームはあと
所在地	東温市田窪2054-1
自己評価作成日	平成28年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>健康管理が行き届いている。 職員が真面目に努力し、精一杯対応していて好感が持てる。 精神面・健康面をトータルでサポートしてくれる。 家庭的でさびしくなく、穏やかに過ごされている。 環境も良く落ち着いた雰囲気もあり明るいホームである。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の駐車場は広く、玄関から出た所には椅子が置かれ、天気の良い日には日光浴ができるようになっている。管理者と職員が共に理念に基づいて利用者の日々の生活を支えていることが、利用者の穏やかな表情からもうかがうことができる。利用者は毎月12日に隻手薬師に参拝して近所の方と交流したり、地域の行事に参加する機会を多く持って外出を楽しんでいる。母体が医療法人で24時間医療連携が取れているため、利用者や家族、職員は安心感が得られている。食事も法人の管理栄養士が作成した献立をもとに、栄養のバランスを考えて作られている。研修に参加した職員はレポートを提出し、職員に伝達して利用者の日々の生活の向上に活かしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームはあと

(ユニット名) A館

記入者(管理者)

氏名 光田 陽子

評価完了日 平成 28年 11月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 一人ひとりの個性を尊重し、地域に密着した生活を支援していく事を理念とし、地域に密着したグループホームを目指す事をあげている。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員が話し合い、意見を出し合っって作った4項目の理念を継承し、家庭的な環境の中で一人ひとりに寄り添ったケアができるよう実践に努めている。また、母体が医療機関であることを活かし、医療と介護の連携のもと利用者の健康管理を行っている。職員は理念を共有して日々の利用者の生活を支えており、利用者は穏やかな表情で過ごしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭、敬老会、文化祭などの地域の行事に利用者と共に参加したり、来訪により交流を持っている。管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声掛け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるように日常的に努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者は毎月12日に開催される隻手薬師の例祭に参拝して出店を楽しんだり、知人と出会うことを楽しみにしている。事業所周辺を散歩する際は近所の人と挨拶を交わしているが、管理者はさらにご近所付き合いができるとよいと考えている。また、近隣の幼稚園児や小学生と交流の機会を持ちたいと働きかけを行っている。地域からは敬老会の案内をもらったり、秋祭には神輿が来てくれ、利用者の楽しみになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症に対する介護方法や理解などの相談にいつでものれるようにしている。ボランティア、研修の受け入れ体制がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議で出た貴重な意見を取り上げ、管理者や職員間で話し合い、サービスの向上に活かしている。報告書は会議参加者全員に配布している。	
			(外部評価) 同法人の事業所と合同で、利用者や家族、区長、民生委員、地域包括支援センターの職員等が参加して開催している。会議では、入居状況と活動報告及び職員異動報告等を行った後、意見交換をしてサービスの向上に活かしている。敬老会やボランティアの演奏会に合わせて開催して、利用者や家族の参加を促したり、管理栄養士や薬剤師による講演も行う等の工夫をして、事業所の運営状況を理解してもらえるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議などで交流を持っている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し意見を言ってもらうほか、入居相談を受けることもあり、相互に連携を取っている。また、市や地域包括支援センターから研修の案内があれば、可能な限り参加して他事業所とも交流している。介護相談員の訪問については地域包括支援センターから声かけがあり、検討中である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で身体拘束をしない方法での対応について話し合い、常に身体拘束のないケアに取り組んでいる。 止むを得ない場合は事前にご家族に十分説明を行っている。	
			(外部評価) 身体拘束についてマニュアルがあり、職員は内部や外部研修を受けて身体拘束をしないケアの実践に努めている。持続点滴や胃瘻造設等医療的処置を必要とする利用者に安全を考慮してやむなく拘束を行う場合は、家族の同意を得た上で、必要最小限になるよう工夫している。また、帰宅願望の強い利用者には自宅近くまでドライブをしたり、散歩に出かける等して気分転換を図っている。	事業所玄関は日中開放されているが、ユニットの入口やユニット間の通路等は施錠されており、職員は鍵を所持して屋内を移動している。見守り体制のしくみ作りや代替え案の検討等さらに職員で話し合い、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組むことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し学んでいる。制度内容はミーティングなどで説明したり、内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学び、報告書を作成して職員に内容を説明している。内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、職員が詳しく説明をし、質問にも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族さんからの意見や要望はいつでも受け付け、対応は管理者が行い計画担当者間で報告し合っている。	
			(外部評価) 運営推進会議で家族から意見をもらう機会を設けたり、面会時に要望等を聞くよう心がけている。以前、職員の名前が分からないという家族の意見を受け、名札を付けるように改善したことがある。遠方に住む家族には、毎月利用者の状況を書いて送り、意思疎通を図るよう努めている。また、3か月毎に行われる介護計画の見直しの際は、改めて家族の意向を確認して計画に反映するよう考慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にミーティングを行い、管理者と職員間で話し合いをする機会を設けている。朝の申し送り時に管理者がそれぞれの意見や提案を聞く機会を持っている。	
			(外部評価) 職員は月1回のミーティングで意見や提案を述べるができるほか、普段から管理者に対して意見を言いやすい関係づくりができています。利用者のケアについては日常的に意見を出して話し合っている。勤務調整についても配慮があり、職員は働きやすい環境であると感じている。管理者で対応できないことは代表者に伝え、職員の意向が反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員同士がお互いに協力し合い、時には競い合って働けるような勤務体制を心がけている。職員それぞれの得意な分野が活かされるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外部の研修会に積極的に参加し、報告会を持っている。研修資料は全員が目を通し、レポートを書いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種講習会や勉強会には積極的に参加し報告会を開いている。外部研修の受講時に同業者と交流を持ち、他のホームの取り組みを参考にしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相槌を打ち、こちらでも理解している事を分かってもらうようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用を開始する前に、家族に施設を見学してもらい、十分に説明し、不安や要望などに耳を傾け信頼関係を築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談から利用までに家族の不安や心配事、質問等には迅速に対応し、関係作りに努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で洗濯物を畳む、掃除等を職員と共に手伝って頂き協力して頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の日々の生活状況を家族に伝える事で、コミュニケーションをとり、利用者を支えるという意味で信頼関係を築いている。毎月利用者の生活状況を手紙で報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事、イベントに参加し、利用者や家族から生活歴を聞き馴染みの場所や地域の人たちとの関係が途切れないように努めている。	
			(外部評価) 地元出身の利用者が多く、友人数人が一緒に面会に来て馴染みの関係が継続している利用者もいる。入居前に同法人のデイサービスを利用していた方は、入居後も交流の機会があり、イベントと一緒に楽しんでいる。また、毎月参拝する隻手薬師で知り合いに会うこともあり、立ち話を楽しみにしている。事業所では地域の祭り等に積極的に参加して、関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格、人間性、レベルなど出来るだけ把握し、より良いコミュニケーションが取れるように工夫し、食事時やミニデイ、外出等多く機会が持てるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、必要に応じて家族からの相談をいつでも受けられるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者一人ひとりの希望に沿う様に職員が個々の話を傾聴し、本人らしい暮らしをして頂けるように支援を行なっているが困難な場合にはご本人の主体性を尊重し、より良い生活が出来るよう努めている。 (外部評価) 職員は、日頃の会話の中で利用者の思いや意向を把握するよう努めている。自分で思いを言えない利用者に対しては、顔の表情や態度、行動等で把握するよう心がけており、職員は年を取った時に自分だったらどうされたいかを考えながらケアしている。新たに得られた利用者の情報は、口頭で申し送りをしたり、記録に残して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人、家族から生活歴を聞き、情報収集を行い、入居後は普段の会話の中で情報を得て職員全員が把握しサービスに繋げる事が出来るよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活状況、心身状態（バイタルチェック）を経過表や行動チェック表等に記入し、日々の生活をチェックしている。ご本人の出来る力を発見すると、職員全員で情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアプランを見直して、状況に応じモニタリングを行っている。管理者、主治医、ケアマネ、職員等でより良いサービス向上を目指し、ご家族にも出席してもらい話し合う機会を持ち、要望や思いを伺いそれを踏まえた上で入居者にとって何が大切か現在の課題をあげて作成している。 (外部評価) 計画作成担当者が利用者と家族の希望や、職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。職員は毎日介護計画の実施状況を記録に残し、3か月に1回カンファレンスを開いて評価、見直しを行っている。その際、家族にも案内して参加してもらい、意向を反映できるよう考慮している。介護計画は利用者の状態に変化があればその都度見直しを行い、状況に合った新たな介護計画を作成して実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の出来事を経過表や検温表に記入し、ケア行動計画の実施状況を毎日チェック、評価する事で状態変化をすぐに察知している。 特別変化のある場合は日誌に記入して申し送りをし、職員が情報を共有できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけ一人ひとりの希望に沿う様に工夫し、医療機関との連携を図り、より良い柔軟な支援やサービスが出来るようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活のスタイルや生活環境、生活歴を聞き、職員全員が把握し、地域の行事、イベントに参加し、安心して本人らしい暮らしが出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月2回の個別の訪問診察がある。 その他、必要に応じて提携医療機関の往診、他の医療機関の受診 サポートをしている。	
			(外部評価) 母体医療法人の医師が利用者のかかりつけ医となっており、利用 者は月2回訪問診察を受けている。歯科・耳鼻科・皮膚科につい ては協力医療機関の往診を受けることができるが、他の専門科医 への受診は家族が付き添うことが原則となっており、困難な場合 はヘルパー付き介護タクシーを紹介している。また、24時間医 療連携が取れており、利用者や家族にとって安心につながってい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常と違う異変があった時は、母体である診療所へ連絡し、指示 を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院が必要と判断された場合、主治医や看護師の指示の下サポ ートしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に利用者や家族に説明し、意向を取り入れられるように方 針を立てながら毎日の容態を記したものを1週間ごとに家族へ報 告している。また、看取り介護の同意書を得ると、主治医や管理 者、ケアマネ、職員及び家族で話し合い、チームでの支援に取り 組んでいる。	
			(外部評価) 事業所は、「重度化した場合における対応及び看取りに関する指 針」を作成し、入居時に利用者や家族に説明して意向を確認して いる。最期まで事業所で暮らしたいと希望する利用者や家族が多 く、事業所では年間数人の利用者を看取っている。職員は看取り について研修会に参加したり、勉強会を行って研鑽を積み、悔い のない看取りの実践に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 社内外の研修に参加し、急変した時や事故発生時に迅速に対応できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月通報訓練を行い、職員全員が災害時に対応できるように避難方法等を身につけている。 半年に一度、消防署の協力の下、避難訓練を行っている。 (外部評価) 年2回消防署の立ち会いのもと、家族の参加を得て避難訓練を行っている。今年度は市から防災のみでなく、防犯についてもマニュアルを作成するよう指導があり検討中である。管理者は地震対策について地域住民との協力体制を構築できないか検討してきているが、まだ不十分だと感じている。今後、地域防災組織について情報を収集し、地域の防災訓練にも参加することを検討している。	災害時の地域との協力体制について運営推進会議で協議を行い、具体的な想定のもと避難訓練を実施することを期待したい。そのために、事業所の避難訓練や地域の避難訓練に双方が参加し合い、実践を積み重ねていくと共に、備蓄品についても早急に整備することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、常に気配りを行い、思いやりのある対応を心がけている。個人情報取り扱いの同意書を取り、書類等も適切に保管している。 (外部評価) 職員は自分がされて嫌なことや恥ずかしいと思うことはしないよう心がけている。特に入浴や排泄介助を行なう際は、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう注意している。入浴時に同性介助を希望する利用者の要望に応えたり、トイレ誘導時には周囲に気を付けて声かけを行う等の配慮をしている。また、個人情報保護についても留意し、書類は鍵のかかる戸棚に収納している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の個々の思いや希望に耳を傾け、したいことや好きな事をケアプランに盛り込み、日々楽しく過ごしてもらえるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしい暮らしが出来るように、一人ひとりの生活の様子を観察し、希望に沿った支援が出来るように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で服を選べる方はご本人に任せて、出来ない方はご本人の希望も取り入れながら季節に合わせた服装にするよう心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の状態に合わせた食形態に注意しながら、ご本人が楽しみながら食べられるよう努力している。調理時に味見をしてもらい、意見を取り入れるなどしている。	
			(外部評価) 献立は病院の管理栄養士が作った献立をもとにして、事業所で考え作成している。食材は配達してもらっているが、配達してもらえないものはその都度スーパーへ買い物に行き、各ユニットで調理して利用者に楽しんでもらっている。利用者は玉ねぎの皮むき等野菜の下ごしらえや下膳の手伝い等できることを手伝っており、職員も一緒に食卓を囲んで利用者と同じものを食べている。誕生会では手づくりのケーキ等を作って、みんなでお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士が栄養バランスの取れた献立を作成し、個人別に食事摂取量や水分量を記録し、一日を通して摂取量が確保できるようにしている。食事量の少ない場合は栄養価の高い飲み物をお勧めしたり、ご本人の好きな物を補食として提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた口腔ケアを行っている。 自力で出来ない利用者は職員が介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の状態を把握し、介助が必要などところを見極めて行う。 排泄の時間などは記録を行い、対応している。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄ができるよう支援している。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。利用者の状態に合わせて適切な排泄用品を使用できるよう、職員で話し合っ選択し、変更をする場合は家族にも相談して経済的負担にも配慮している。また、快適に排便できるよう、必要時はかかりつけ医に相談して内服薬でコントロールしている利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医に相談し、利用者一人ひとりの状態によって排便コントロールを行っている。食事、飲み物等には気を付け、運動不足にならないようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の状態に合わせて臨機応変に対応している。 拒否が見られる時などは時間を空けたり、翌日に変更をしている。	
			(外部評価) 個別浴槽に週3回入浴できるよう支援している。Aユニットには機械浴の設備があり、自力で浴槽への移動ができない利用者も安心して入浴することができている。また、シャワーチェアやシャワーキャリー等の福祉用具を活用して、安全に入浴ができるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、歌を唄いながら誘ったり、時間や職員を変えて声かけを行う等して無理強いすることなく入浴できている。状態により入浴ができない利用者は清拭をして、清潔が保てるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも休息が取れるように居室やホール内をオープンにしている。夕食前に軽く体操をするなどして、気持ちよく眠られるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬等を防ぐため、職員が服薬管理を行っている。 薬剤情報がいつでも見られるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の好きな方には洗濯物を畳んでもらったり、車椅子の方にも食事前にテーブルを拭いてもらうなど、出来る事をして頂き役割を持てるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人の希望に沿って家族との外出も自由にしてもらっている。 地域の行事にも参加するようにしている。毎月隻手薬師の参拝も支援している。天気の良い日は職員と共に近所を散歩している。 (外部評価) 毎朝庭に出てラジオ体操を行って、外気浴を楽しんでいる。天気の良い日には近隣を散歩しており、毎月12日には隻手薬師に参拝している。日曜日はイベントの日と定め、神社の夏祭り、ふれあい感謝祭等の地域行事に積極的に参加して利用者に喜ばれている。また、市場で外食を楽しむこともある。法人のデイサービスで行われる行事にも参加する等、外出の機会を多く持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理がある程度可能な方は、ご本人から要望があれば職員と共に買い物に出かけ、ご本人が所持している財布から支払いをしてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望がある時は電話をしてもらっている。友人からかかってくることもある。毎年賀状や暑中見舞いの葉書をGHからご家族に送っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を感じてもらえるように、季節の花などを飾っている。壁にも季節の飾りつけをしている。 共有スペースで寛いでもらえるように音楽をかけたり、自分の家にいるような雰囲気づくりに努めている。	
			(外部評価) 事業所の駐車場は広く、戸外に椅子を置いて日光浴を楽しむことができる。居間は明るく、壁には季節を感じる飾り付けがされている。普段ユニット間は、行き来ができないよう仕切りがされているが、行事を行う際は開放して使用することがある。オープンキッチンとなっているため、職員は利用者の見守りをしながら調理をすることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自室とホールを行き来できるような配置になっており、利用者一人一人が好きな場所、落ち着いた場所で過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の趣味の物、好みの物に囲まれて暮らせるように以前から使用していた愛着のあるものをホームでも使用してもらっている。	
			(外部評価) 居室にはベッド、チェスト、エアコンが備え付けられており、窓下が収納スペースになっている。利用者はその上に自分の手づくり品や好みの物を置いて、居心地の良い部屋にしている。また、窓辺にハンガー棒が備え付けられており、洋服をかけている利用者も多い。椅子やテレビ、加湿器が置いてある部屋や、看板職人だった利用者の部屋には見事な作品が置かれ、個性的な部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの出来る事を見つけ、それを維持できるよう職員間で話し合いケアプランを作成している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891500054
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホームはあと
所在地	東温市田窪2054-1
自己評価作成日	平成28年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>健康管理が行き届いている。 職員が真面目に努力し、精一杯対応していて好感が持てる。 精神面・健康面をトータルでサポートしてくれる。 家庭的でさびしくなく、穏やかに過ごされている。 環境も良く落ち着いた雰囲気もあり明るいホームである。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の駐車場は広く、玄関から出た所には椅子が置かれ、天気の良い日には日光浴ができるようになっている。管理者と職員が共に理念に基づいて利用者の日々の生活を支えていることが、利用者の穏やかな表情からもうかがうことができる。利用者は毎月12日に隻手薬師に参拝して近所の方と交流したり、地域の行事に参加する機会を多く持って外出を楽しんでいる。母体が医療法人で24時間医療連携が取れているため、利用者や家族、職員は安心感が得られている。食事も法人の管理栄養士が作成した献立をもとに、栄養のバランスを考えて作られている。研修に参加した職員はレポートを提出し、職員に伝達して利用者の日々の生活の向上に活かしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームはあと

(ユニット名) B館

記入者(管理者)

氏名 光田 陽子

評価完了日 平成 28年 11月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 一人ひとりの気持ちを大切に、日々健康管理を行っている。地域の行事に参加している。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員が話し合い、意見を出し合って作った4項目の理念を継承し、家庭的な環境の中で一人ひとりに寄り添ったケアができるよう実践に努めている。また、母体が医療機関であることを活かし、医療と介護の連携のもと利用者の健康管理を行っている。職員は理念を共有して日々の利用者の生活を支えており、利用者は穏やかな表情で過ごしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事、イベントなどに積極的に参加している。</p> <p>(外部評価) 利用者は毎月12日に開催される隻手薬師の例祭に参拝して出店を楽しんだり、知人と出会うことを楽しみにしている。事業所周辺を散歩する際は近所の人と挨拶を交わしているが、管理者はさらにご近所付き合いができるとよいと考えている。また、近隣の幼稚園児や小学生と交流の機会を持ちたいと働きかけを行っている。地域からは敬老会の案内をもらったり、秋祭には神輿が来てくれ、利用者の楽しみになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 見学希望の方や認知症に関する対応、相談などを受けられるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2カ月に1度行っている。民生委員の方や区長、利用者のご家族等に参加して頂いている。	
			(外部評価) 同法人の事業所と合同で、利用者や家族、区長、民生委員、地域包括支援センターの職員等が参加して開催している。会議では、入居状況と活動報告及び職員異動報告等を行った後、意見交換をしてサービスの向上に活かしている。敬老会やボランティアの演奏会に合わせて開催して、利用者や家族の参加を促したり、管理栄養士や薬剤師による講演も行う等の工夫をして、事業所の運営状況を理解してもらえよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議などで交流を持っている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し意見を言ってもらうほか、入居相談を受けることもあり、相互に連携を取っている。また、市や地域包括支援センターから研修の案内があれば、可能な限り参加して他事業所とも交流している。介護相談員の訪問については地域包括支援センターから声かけがあり、検討中である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) やむを得ず一部の利用者にはつなぎやミトンをしている。事前に家族に十分に説明し、理解と同意を得ている。	
			(外部評価) 身体拘束についてマニュアルがあり、職員は内部や外部研修を受けて身体拘束をしないケアの実践に努めている。持続点滴や胃瘻造設等医療的処置を必要とする利用者に安全を考慮してやむなく拘束を行う場合は、家族の同意を得た上で、必要最小限になるよう工夫している。また、帰宅願望の強い利用者には自宅近くまでドライブをしたり、散歩に出かける等して気分転換を図っている。	事業所玄関は日中開放されているが、ユニットの入口やユニット間の通路等は施錠されており、職員は鍵を所持して屋内を移動している。見守り体制のしくみ作りや代替え案の検討等さらに職員で話し合い、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組むことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修などに参加し、研修内容を全員把握している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、把握できるようにしていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、又は職員が説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) カンファレンス、または運営推進会議など家族の要望や意見を聞く機会を設けている。	
			(外部評価) 運営推進会議で家族から意見をもらう機会を設けたり、面会時に要望等を聞くよう心がけている。以前、職員の名前が分からないという家族の意見を受け、名札を付けるように改善したことがある。遠方に住む家族には、毎月利用者の状況を書いて送り、意思疎通を図るよう努めている。また、3か月毎に行われる介護計画の見直しの際は、改めて家族の意向を確認して計画に反映するよう考慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング等で職員の意見を管理者に聞いてもらっている。	
			(外部評価) 職員は月1回のミーティングで意見や提案を述べることができるほか、普段から管理者に対して意見を言いやすい関係づくりができている。利用者のケアについては日常的に意見を出して話し合っている。勤務調整についても配慮があり、職員は働きやすい環境であると感じている。管理者で対応できないことは代表者に伝え、職員の意向が反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) お互いに協力して業務が行えるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加し、全員がレポート提出している。レポートはいつでも閲覧できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修参加時等に意見交換を行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人の話や要望を出来る限り聞き取りし、対応できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、現場の職員と家族間で随時モニタリングを行い、ご家族の不安や心配事を聞き取るようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族の質問や相談には出来る限り迅速に対応できるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活全般にお手伝いという形で協力して頂いている。一緒に洗濯物を畳んだり、掃除をしてもらうなどしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人を良く知る為に話しかけをし、話を聞いてあげる事で信頼関係が生まれご本人の生活を支えられるように努めている。 毎月1回生活状況ご家族に手紙で報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人やご家族から生活歴を聞き、馴染みの人や場所等の関係が途切れないようにしている。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、友人数人が一緒に面会に来て馴染みの関係が継続している利用者もいる。入居前に同法人のデイサービスを利用していた方は、入居後も交流の機会があり、イベントと一緒に楽しんでいる。また、毎月参拝する隻手薬師で知り合いに会うこともあり、立ち話を楽しみにしている。事業所では地域の祭り等に積極的に参加して、関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格を把握し、より良いコミュニケーションをとれるようレクやゲームをしたり、毎月誕生会をしたりと利用者全員との触れ合いを設けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了してもアフターフォローをし、いつでも相談に乗れるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来るだけご本人の要望に沿う様にしている。困難な場合はご本人の主体を尊重し、より良い決定が出来るよう助言している。 会話が困難な利用者についてはご家族などから情報を得てご本人の立場にたって考えるようにしている。 (外部評価) 職員は、日頃の会話の中で利用者の思いや意向を把握するよう努めている。自分で思いを言えない利用者に対しては、顔の表情や態度、行動等で把握するよう心がけており、職員は年を取った時に自分だったらどうされたいかを考えながらケアしている。新たに得られた利用者の情報は、口頭で申し送りをしたり、記録に残して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人ご家族から生活歴を聞き、職員全員で把握しサービスに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとり経過表、行動チェック表などに記入し、日々の生活を記録している。 ご本人の心身状態に変化が見られた場合はすぐにリーダーに報告をし、職員全員に申し送りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアプランを見直している。状態によってモニタリングを行い、管理者、主治医やケアマネ、職員等でより良いサービスの向上を目指している。ご家族も出席して話し合う機会を持っている。	
			(外部評価) 計画作成担当者が利用者と家族の希望や、職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。職員は毎日介護計画の実施状況を記録に残し、3か月に1回カンファレンスを開いて評価、見直しを行っている。その際、家族にも案内して参加してもらい、意向を反映できるよう考慮している。介護計画は利用者の状態に変化があればその都度見直しを行い、状況に合った新たな介護計画を作成して実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎月1回は気づき用紙を記入し、職員でプランを話し合っている。職員はケアプランを毎日チェックしている。介護計画は利用者の状態により、その都度見直している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけご本人の希望に沿う様にしている。柔軟な支援やサービスが出来るように取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日々の生活からご本人の生活環境などを把握し、本人らしく生活できるように、出来る限り行事等に参加できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月に2回、主治医の訪問診察があり、利用者個々の健康状態の把握 に努めている。 主治医及び協力医療機関への連携体制が確立されている。	
			(外部評価) 母体医療法人の医師が利用者のかかりつけ医となっており、利用者 は月2回訪問診察を受けている。歯科・耳鼻科・皮膚科については 協力医療機関の往診を受けることができるが、他の専門科医への受 診は家族が付き添うことが原則となっており、困難な場合はヘル パー付き介護タクシーを紹介している。また、24時間医療連携が 取れており、利用者や家族にとって安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 病院内の看護師も利用者の事を把握しているので医療面でも支援で きる体制にある。 夜間緊急時にはすぐに電話連絡をし、相談、指導を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は情報交換がスムーズに行えるように介護要約書にて報告を し、電話にて常に連絡を取り合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医や管理者、ケアマネ、職員及びご家族で話し合い、ご本人の 意向を取り入れられるよう方針を立てている。また、看取り介護の 同意書を得ると毎月の容態を記したものを1週間ごとにご家族に報 告している。	
			(外部評価) 事業所は、「重度化した場合における対応及び看取りに関する指 針」を作成し、入居時に利用者や家族に説明して意向を確認してい る。最期まで事業所で暮らしたいと希望する利用者や家族が多く、 事業所では年間数人の利用者を看取っている。職員は看取りにつ いて研修会に参加したり、勉強会を行って研鑽を積み、悔いのない看 取りの実践に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時は適切な医療が受けられるように職員全員が講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月職員が通報訓練を行っている。 半年に1度、消防署の協力の下、避難訓練を行っている。	
			(外部評価) 年2回消防署の立ち会いのもと、家族の参加を得て避難訓練を行っている。今年度は市から防災のみでなく、防犯についてもマニュアルを作成するよう指導があり検討中である。管理者は地震対策について地域住民との協力体制を構築できないか検討してきているが、まだ不十分だと感じている。今後、地域防災組織について情報を収集し、地域の防災訓練にも参加することを検討している。	災害時の地域との協力体制について運営推進会議で協議を行い、具体的な想定のもと避難訓練を実施することを期待したい。そのために、事業所の避難訓練や地域の避難訓練に双方が参加し合い、実践を積み重ねていくと共に、備蓄品についても早急に整備することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に気配りを行い、利用者のプライバシーを尊重し、思いやりのある優しい言葉遣いで接するように心がけている。	
			(外部評価) 職員は自分がされて嫌なことや恥ずかしいと思うことはしないよう心がけている。特に入浴や排泄介助を行なう際は、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう注意している。入浴時に同性介助を希望する利用者の要望に応えたり、トイレ誘導時には周囲に気を付けて声かけを行う等の配慮をしている。また、個人情報保護についても留意し、書類は鍵のかかる戸棚に収納している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の個々の意見に耳を傾け、ご本人の好きな事やしたい事をケアプランに盛り込み、日々楽しく過ごしてもらえるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりに生活を様子観察し、その人に合った暮らしが出来るように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に合わせて対応している。自力で出来ない利用者は職員が対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に希望を聞いて、無理を押し付けることなく楽しい雰囲気でき事が出来るように心がけている。	
			(外部評価) 献立は病院の管理栄養士が作った献立をもとにして、事業所で考え作成している。食材は配達してもらっているが、配達してもらえないものはその都度スーパーへ買い物に行き、各ユニットで調理して利用者に楽しんでもらっている。利用者は玉ねぎの皮むき等野菜の下ごしらえや下膳の手伝い等できることを手伝っており、職員も一緒に食卓を囲んで利用者と同じものを食べている。誕生会では手づくりのケーキ等を作って、みんなでお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に水分、食事摂取量を記録し、1日を通して摂取量が把握できるようにしている。 食事が少ない場合は栄養価の高い飲み物をお勧めしたり、ご本人のお好きな物を補食として提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じ口腔ケアを行っている。 スポンジクリーナーや舌ブラシなど、それぞれに合ったものを使用し、自力で出来ない利用者は職員が介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーには十分配慮し、ご本人の出来る力に合わせた排泄の支援を行っている。 排泄時間を記録し、対応している。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄ができるよう支援している。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。利用者の状態に合わせて適切な排泄用品を使用できるよう、職員で話し合っ選り、変更をする場合は家族にも相談して経済的負担にも配慮している。また、快適に排便できるよう、必要時はこちらにつけ医に相談して内服薬でコントロールしている利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医に相談し、一人ひとりの状態に応じ排便コントロールをしている。飲み物や食材を工夫し、毎日ラジオ体操等の運動を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に沿って臨機応変に対応している。状態不安定な利用者や拒否がある時は時間をおいたり翌日に変更したりと無理のないように対応している。	
			(外部評価) 個別浴槽に週3回入浴できるよう支援している。Aユニットには機械浴の設備があり、自力で浴槽への移動ができない利用者も安心して入浴することができている。また、シャワーチェアやシャワーキャリー等の福祉用具を活用して、安全に入浴ができるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、歌を唄いながら誘ったり、時間や職員を変えて声かけを行う等して無理強いすることなく入浴できている。状態により入浴ができない利用者は清拭をして、清潔が保てるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも休息が取れるように居室やホール内をオープンにしている。夕食前に睡眠体操を行い、安眠を誘っている。昼夜逆転にならないように生活のリズムに気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ADLの低下に伴い、職員が管理し服薬支援を行っている。 薬剤情報がいつでも見られるように保管している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の好きな方は洗濯畳みや洗い物などのお手伝いをしてもらっている。読書が好きな方はいつでも雑誌や新聞等が読めるようにしている。カラオケをいつでも利用できるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人の希望に沿ってご家族との外出も自由にしてもらっている。地域の行事にも参加するようにしている。毎月隻手薬師の参拝も支援している。天気の良い日は職員と共に散歩を行なっている。	
			(外部評価) 毎朝庭に出てラジオ体操を行って、外気浴を楽しんでいる。天気の良い日には近隣を散歩しており、毎月12日には隻手薬師に参拝している。日曜日はイベントの日と定め、神社の夏祭り、ふれあい感謝祭等の地域行事に積極的に参加して利用者に喜ばれている。また、市場で外食を楽しむこともある。法人のデイサービスで行われる行事にも参加する等、外出の機会を多く持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者と一緒に近所のコンビニ等に買い物に行き、ご本人が好きなおやつなどを選び支払いをしてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望がある時は電話をしてもらっている。友人からかかってくることもある。毎年賀状や暑中見舞いの葉書をGHからご家族に送っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節感を感じてもらえるように、季節の花などを飾っている。壁にも季節の飾りつけをしている。 共有スペースで寛いでもらえるように音楽をかけたり、自分の家にいるような雰囲気づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 事業所の駐車場は広く、戸外に椅子を置いて日光浴を楽しむことができる。居間は明るく、壁には季節を感じる飾り付けがされている。普段ユニット間は、行き来ができないよう仕切りがされているが、行事を行う際は開放して使用することがある。オープンキッチンとなっているため、職員は利用者の見守りをしながら調理をすることができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 自室とホールを行き来できるような配置になっており、利用者一人一人が好きな場所、落ち着いた場所で過ごせるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者の趣味の物、好みの物に囲まれて暮らせるように以前から使用していた愛着のあるものをホームでも使用してもらっている。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッド、チェスト、エアコンが備え付けられており、窓下が収納スペースになっている。利用者はその上に自分の手づくり品や好みの物を置いて、居心地の良い部屋にしている。また、窓辺にハンガー棒が備え付けられており、洋服をかけている利用者も多い。椅子やテレビ、加湿器が置いてある部屋や、看板職人だった利用者の部屋には見事な作品が置かれ、個性的な部屋になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者一人ひとりの出来る事を見つけ、それを維持できるよう職員間で話し合いケアプランを作成している。</p>	